

今週のメニュー

■トピックス

◇国内最大級の環境展示会“エコプロダクツ2011”に5年連続出展！

—環境の時代に相応しい塩ビ、社会を支える塩ビ、
ものづくりの新たな可能性を求めて！（VEC展示コンセプト）—

■随想

◇オックスフォード便り（番外編 バリ島編 その1）

関東学院大学 織 朱實

■編集後記

■トピックス

◇国内最大級の環境展示会“エコプロダクツ2011”に5年連続出展！

—環境の時代に相応しい塩ビ、社会を支える塩ビ、
ものづくりの新たな可能性を求めて！（VEC展示コンセプト）—

昨年12月15日から17日までの3日間、日本最大級の環境展示会「エコプロダクツ2011」((社)産業環境管理協会、日本経済新聞社主催)が、東京ビッグサイト東ホールで開催されました。今年は、円高、大震災など厳しい経済状況の中でしたが、出展者数は750社・団体、入場者数は昨年とほぼ同数の18.1万人となりました。今回は、東北大震災の復興に向けて「がんばろう日本！「環境」で復興をーが、大きなキャッチフレーズとなりました。また、エコプロダクト展のコンセプトである「技術を活用して無理なく環境配慮を進めていく」をこの未曾有の大震災から日本経済を復興させる原動力にし、ひいては被災地の復興に繋がっていくというエコプロ事務局の考えに賛同し、塩ビ工業・環境協会(VEC)も塩化ビニル環境対策協議会(JPEC)と協同で5年連続出展しました。



塩ビブース

ここで、ご来場頂けなかった方々へブースと展示品などを簡単にご説明致します。ブースは、日本で52年もの耐久実績がある塩ビパイプでできたフレームを中心に、タイルカーペットの床、展示台、展示物のケースまでブース全体を塩ビで製作しました。実際には、約1,500本もの塩ビパイプを使用したブースは、圧巻でユニークでインパクトがあったとの意見を多数の方々からお聞きしました。

展示品は、下記の3つのゾーンに分けて、震災復興に向けてインフラに貢献する塩ビ製品から、本年度実施しました塩ビものづくりコンテストの入賞作品及び関連するPVC製品を展示しました。

1. 社会のインフラ・ライフを支える PVC
 - ・電線、RR ロング管、輸血バッグの展示



2. 地球環境・自然保護に貢献する PVC
 - ・樹脂サッシ、ヤマネの巣（塩ビ管）、壁紙リサイクル品幼稚園グッズ



3. 新しい可能性にチャレンジする PVC
 - ・ものづくりコンテストの入賞作品（準大賞の^{やささめ}優雨とサクラ他）



サクラ

塩ビ管のブースと共に、塩ビって塩から出来ているのとの改めて認識して頂いた方々も多数いらっしゃいました。また、耐震 RR ロング管、輸血バッグ、ヤマネの巣箱、壁紙のリサイクル品の幼稚園グッズなど、塩ビが社会に貢献していることや、PVC は“こんなところにも使われている” のと驚かれた方も多数いらっしゃいました。

例年通り、今年もクイズラリーを実施し、ノベルティーとして塩ビものづくりコンテストで準大賞に輝きました“サクラ”を正解者全員に提供いたしました。あまりの反響で最終日の後半に品切れとなってしまいました。ご提供できなかった方には、この場をかりてお詫び申し上げます。今年のエコプロダクト展 2012 では、ますます楽しい、省資源の塩ビのエコをアピールして行きたいと考えております。お楽しみにしておいて下さい。

最後になりますが、塩ビ製品の出展にご協力頂いた方々、立ち会って頂いた方々に御礼申し上げます。（了）

◇オックスフォード便り（番外編 バリ島編 その1）

関東学院大学 織 朱實

今回のオックスフォード便りは、メキシコ編に次いで昨年の10月メキシコから戻って、落ち着く間もなく国際会議参加のために飛んだバリ島編です。今まで、私が参加した国際会議といえば、ほとんどがブリュッセル、パリ、ボンといった欧州で、アジアの場合でもバンコック、ハノイといった都心。今回のように、まさにTheリゾート！という場所での会議は初めて。「会議に参加しながら、リゾート気分？」とわくわくしていましたが、これが結構しんどいものがありました(笑)。



いかにものリゾートホテル

周りを見回せば、リゾートを楽しむ欧州ファミリー、カップル、特に目立つのがシニアカップル（日本人観光客は時期外れだったのかほとんどいませんでした）。その中で、明らかに場の雰囲気にもそぐわないスーツ集団。重たそうなファイル一式抱えて、広々としたプールを横目に毎朝会場へ（いくつも大きなプールがあったのですが、ついに入ることができず、残念！）。周りの人たちのリゾート気分、ぶち壊しもいいところですよね。

とはいえ、アジアの会議は時間管理も雰囲気も緩やか、お昼休み、会議終了後はバリ島探索も（会議が開催されていたグランドハイヤット・バリは、隔離されたセレブエリアの中にあり、あまりバリらしい雰囲気は味わえないのですが）。一步エリアを出ると、ローカルエリアでバリ島の雰囲気を楽しむことができました（写真は、美しい棚田、バリで有名なケチャ・ダンス）。



棚田

そんな中で、今回は「これは普通の観光客ではいかないだろうな」の写真を。まずは、偶然知り合った地元のガイドさん（日本語が堪能！）が連れて行ってくれた彼の村の有名なバリアン（Balian）の診療所。バリアンというのは、いわゆる「呪医」「祈祷師」と呼ばれる人たち。バリの人たちは、実際病気になる前にバリアンの治療で免疫力を高め、それでも病気になった時に病院に行くそうです。病院の治療でも回復がはかばかしくないときにも、バリアンを頼るとのこと。



ケチャ・ダンス



今回連れて行ってもらったのはウブドの近くの村のチョコレート師。彼は日本のガイドブックにも出ていて、以前細川元首相も訪れたそうです。世の中で、バランスが重要という考え方で、人間の体のバランスが崩れているところを見つけてそれを治療してくれるとのこと。私が行った時にはオーストラリア人の女性が2人治療を受けていました（まるでジュリアロバーツの「食べて、祈って、恋して」みたい）。



バリヤン(チョコレート師)と診療風景

私も、「特に問題はないけど～」と思ながらも、せっかくなのだからと治療を受けてみると（頭に手をかざして気を見る感じ）、「肝臓も腎臓も内蔵すべて OK、でも頭がひどい、頭のところに問題がある」。「使いすぎである、ひどい状態になっている」。さらに、棒で足の指を1つずつ押して行って、ここは腎臓、ここは肝臓、ここは心臓と、部位と関連するツボを押されていきます。どの指も、棒を当てられても全く痛みを感じなかったのが、頭のツボにあたる中指を押された瞬間、飛び上がるほどの激痛！びっくりしました。

先生が言うには、頭は司令官で、体、内蔵は兵士のようなものだ。司令官がやりたいことがいっぱいあって指令を出しすぎているので、兵士は、今はおとなしく言うことをきいているがもう限界にきている。そのうちあふれ出てしまうから、司令官は指令を出すスピードを落とさないといけない。ガイドさんいわく「仕事のしすぎで、頭をフル回転で使いすぎ。自分では気が付いていないけど体が悲鳴をあげている、ということらしいです」。

で、治療は、「まず、自分の顔全体をイメージして息をゆっくり吸って、笑顔を手の中にとりこんで、そこから体中に笑顔を分配して、最後は息として吐き出す」。言われたとおりにやった後、足の同じところを棒で押さえられたらまったく痛くなくなっていて・・・これには、びっくりしました。2時間仕事をしたら2分この動作をするようにと言われました。体の緊張を適度な周期でリラックスさせるといいということでしょうか。

まわりにこの診察結果を伝えると、みなから異口同音に「仕事しすぎ、動きすぎ、働きすぎだから、いいアドバイスもらったね」と言われたのですが、帰国後まったく実践できていません（これまた、とほほですわ）。

実はこの診断、帰国後12月に思いがけないかたちで「あたっている！」という事実が・・・それはまたどこかでご紹介できればと思います。気になる診療代ですが、2000円くらいです。祈祷に必要なバンテン（お供え物）と一緒に渡しました。次回は、バリ島の日常生活の様子を！

前回：[オックスフォード便り（番外編 アミーゴ！魅惑のメキシコ その2）](#)

■ 編集後記

「1 月はいぬる」で早々と過ぎようとしています、今年はどうな年になるのでしょうか。ギリシャの債務不履行問題の行方、TPP、日本の原発問題、震災からの復興など問題が山積みですが、種の保存の本能に従って、人類の保存にも本能が働いてすべてがうまく行くことを期待しています。何はともあれ東北の復興だけは着々と進んで欲しいと願っています。(ももっち)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 東 幸次

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp